

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立阿倍野小学校

令和8年3月

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

〈現状〉

令和6年度大阪市小学校学力経年調査の児童質問紙調査において、自己肯定感に関する「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、79.1%であり、大阪市平均より0.9ポイント下回っている。しかし最も肯定的に回答する児童の割合をみると本校児童の割合は、48.8%であり、大阪市平均より1.4ポイント上回っている。いじめに関する「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は95.5%であり、大阪市平均より0.3ポイント下回っている。また、最も肯定的に回答する児童の割合は81.3%であり、大阪市平均より0.2ポイント上回っている。

〈課題〉

自己肯定感をより一層高め、自分で様々なことに挑戦したり、人のために何かできることはないか考え取組んだりできるようにしていく。また、その取り組みを通していじめはどんな理由があってもいけないことであるという強い意識を高めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〈現状〉

令和6年度大阪市小学校学力経年調査の結果、4年生の理科において大阪市平均正答率を少し下回っているが、他の教科においては、大阪市平均正答率を上回っており、学ぶ力については、概ね備わっているといえる。児童質問紙調査について、考えを深めることに関する「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」では、最も肯定的に回答する児童の割合は47.1%であり、大阪市平均を上回っているが、課題であると考え。運動に関する「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。」に対して最も肯定的に回答の割合は55.6%であり、大阪市平均より8.2ポイント下回っている。

〈課題〉

主体的・対話的で深い学びとなるよう授業を工夫し、既習内容を生かし、自ら考え、友だちとの意見交流を通して、さらに自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。体力向上においては、楽しく体を動かす機会を設け、子どもたちが運動やスポーツに興味関心をもち、より上手に体を使うにはどうすればよいか考え取組むことができるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

〈現状〉

一人一台配備されている学習者用端末については、各教科・領域の学習内容によって効果的に活用するようにしている。子どもたちは端末の操作に慣れ、目的に応じて進んで活用することができる。教職員は一人一人に寄り添い、子どもたちがより成長できるように、いろいろな取り組みを考えたり、教材研究等を行ったりしている。

〈課題〉

今後の社会を見据え、子どもたちが情報機器を日常的に活用し、ICTを活用する能力を向上していく。そして、ICTを活用した個に応じた学びや協働的な学びを実現できるようにしていく。よりよい教育を提供するには教職員の健康も必要不可欠である。働き方改革を推進し、教職員がゆとりをもって、子ども一人一人に寄り添うことができるようにする。また、学校での取組を学校ホームページ等を活用し発信し、学校・保護者・地域で協力して子どもたちを育てていくことができるようにする。

中期目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている」について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、「大変そう思う」の割合を30%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまらない」と回答する児童の割合を、5%以下にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学級生活満足群」の割合について、低学年60%以上、高学年70%以上を維持できるようにする。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、概ね1.05以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、「難しいと思わない」「どちらかというとなんか難しいと思わない」に回答する児童の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学習意欲」得点について、9.5以上を維持する。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が、大阪市平均より上回るようにする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した授業を高学年で週に3回以上、低学年で週に2回以上実施する。
- 小学校学力経年調査において、4教科の「活用(思考力・判断力・表現力)」について、市平均との比較値を前年度より高める。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する【基準2のア:1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない】を満たす教員の割合を90%以上にする。
- 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的回答率70%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合85%以上を維持する。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。
- 児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回答率を80%以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。
- 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的回答率65%以上を維持する。
- 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の各最重要目標における取組内容では12個の取組の中でA評価が2個、B評価が10個であり、達成率は100%となった。ただ、B評価の中には、A評価としてもいいのではないかといたものが含まれるが、足りない点にフォーカスしたため、B評価とした。達成率が100%に達することができたのも、教職員の努力の結果だと考える。今後、学校の子どもの力をさらに伸ばす努力とともに、効果的、効率的に業務に取り組む必要がある。

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。 ○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 ○ 児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合85%以上を維持する。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|----------|
| <p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>毎月の生活指導部会や職員会議後の情報共有、日々の「心の天気」や年2回のQ-Uを活用することで、学校全体で学級のような児童の心情変化を把握し、心のケアや指導につなげる。 (いじめへの対応)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・ 3学期のQ-Uにおける「学級生活満足群」の割合について、低学年60%以上、高学年70%以上を維持できるようにする。 | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年3回の避難訓練を通して、非常時に安全に避難できるようにする。また、学期に1回の通学路点検、毎月の安全点検により、危険個所に対して早期に対応するとともに、「見守り隊」や保護者との協働による安全な学校づくりをすすめる。 (安全教育の推進)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。</p> | B |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の学習や学級活動、あべっこ班（たてわり班）活動、ペア学年での「なかよし集会」を通して、思いやりのある集団づくりをすすめることで、自己有用感を高める。</p> <p style="text-align: right;">（道徳教育の推進）</p> | B |
| <p>指標</p> <p>児童アンケート「あべっこ班での活動を通して、自分の良いところや友だちの良いところを見つけることができましたか」について肯定的回答率の割合を85%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>年2回の「あいさつ運動」や代表委員会の活動、その他、授業中の発言や職員室への入室時の言葉など機を捉えて指導することで、場に応じたあいさつや言葉づかいができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">（道徳教育の推進）</p> | B |
| <p>指標</p> <p>児童アンケート「相手の目を見て自分からあいさつをしている」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている」について、「そう思う」と回答する児童の割合85%以上を維持する。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）</p> <p>① 毎月の生活指導部会および職員会議後の情報共有の場を通して、学級の状況や気になる児童について教職員間で継続的に共有してきた。加えて、日々の「心の天気」入力や、学期に1回のいじめアンケート、年2回実施しているQ-Uの結果を活用することで、児童の心情変化や学級の健康状態を客観的に把握することができている。特に、1年生のQ-Uを2学期から実施するように変更したことは、より適切な実態把握につながり有効であった。また、課題のある児童への対応においては、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）、区役所の子育て支援室など外部機関とも連携し、学校全体で支援体制を整えてきた。これらの取り組みにより、児童の特性に応じた指導・支援が組織的に行える環境が構築されつつある。</p> <p>② 避難訓練の実施にあたり、前年度の反省点を踏まえて内容の改善を行うとともに、必要な事項については生活指導部会で協議し、より効果的な訓練となるよう取り組んできた。地震・不審者・火災など、場面に応じた避難方法を年4回計画的に実施（引き渡し訓練）し、児童の理解が進んでいる様子が見られた。また、通学路点検や校内の安全点検を継続して行い、児童にとって安全な環境づくりに努めている。2学期には教職員を対象とした防犯避難訓練も実施し、教職員の危機対応能力の向上にも取り組んだ。さらに、地域の「見守り隊」との連携を深めるため、情報交流会やお礼の会を実施し、児童が感謝の気持ちを伝える機会を設けるとともに、地域から寄せられた意見を学校全体の安全指導に生かしている。これらの取り組みにより、学校内外の安全意識が高まり、児童の安心・安全な学校生活の確保につながっている。</p> <p>③ 係活動を通して児童が学級の一員として役割を果たし、充実感や達成感を得られるよう取り組んできた。また、児童集会でのあべっこ班活動、ペア学年によるなかよし集会、1・2年生の大根パーティーなど、年間を通して異学年交流の機会を計画的に設けた。これら</p> | |

の活動を通して、児童同士の関わりが深まり、高学年が低学年に対して思いやりをもって接する姿が多く見られるようになった。特に、あべっこ班活動では、高学年児童がリーダーとして落ち着いて声をかけるなど、主体的に役割を果たす姿が育っている。また、なかよし集会では、低学年児童に積極的にボールを回したり、優しい言葉がけを行ったりするなど、異学年間の温かい交流が自然に生まれていた。これらの取り組みにより、児童の思いやりの心や協働する力が育成され、学校全体として温かい人間関係づくりが進んでいる。

- ④ あいさつ運動を実施し、児童が普段より早く登校して積極的に参加する姿が見られた。早めの登校により時間的な余裕が生まれ、また朝から声を出す活動を行うことで、その日一日を表情良く過ごす児童が多く見られた。さらに、日常の学級指導を通して言葉づかいの指導を行ったことで、大人に対して丁寧な言葉でコミュニケーションを取る児童が増えてきており、場に応じたあいさつや言葉づかいができる児童が多くなっている。一方で、「自分からあいさつする」ことについては、廊下や階段、来校者への対応など、校内での場面ではまだ難しさが見られる児童もいる。また、あいさつの声が小さく相手に届きにくい場合もあり、今後の課題として継続的な指導が必要である。これらの取り組みを通して、児童のあいさつに対する意識は確実に高まっており、今後も学校全体であいさつの習慣化を図っていく。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 学級の様子や児童の情報について、引き続き学校全体で共有していく必要がある。「心の天気」については、入力習慣化していない児童や、活用の仕方にばらつきが見られるため、校内で共通理解を図りながら、児童の気持ちを把握する手立てとして有効に活用していく。今後も、課題のある児童については、学級担任だけでなく学校全体で情報共有し、スクールカウンセラーや外部機関とも連携しながら、継続的に指導・支援を行っていく。
- ② 登下校の安全について、引き続き指導が必要である。今後も、教職員や見守り隊、地域・保護者と連携しながら、安全な登下校ができるよう継続して指導していく。また、避難訓練・防犯訓練については、内容がマンネリ化しないよう工夫しながら、計画的に実施していく。避難時の教職員の体制についても年度当初に確認し、今後も安全・安心な教育環境づくりに努めていく。
- ③ 異学年交流で互いに思いやりをもった態度で接する機会を設け、自己有用感を高めてきたが、指標である「あべっこ班での活動を通して、自分の良いところを見つける」ということは、低学年の児童にとっては難しい。今後、指標や活動内容について検討していく。
- ④ あいさつ運動や代表委員会の活動時以外に廊下や階段でもあいさつができるよう引き続き指導が必要である。素敵なあいさつができている児童が、児童からも大人からも認められるような学校全体の空気づくりに努め、小さい声の児童に対して、相手に伝わるための工夫を考えさせ実行させる。

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も対全国比より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 ○ 児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回答率を80%以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|----------|
| <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科の研究を行い、公開授業を各学年1回以上実施する。また、基礎的・基本的な学習内容についての理解を確かにするための取組（朝学習やチャレンジタイム、家庭学習の習慣を確立する取組など）を行う。</p> <p style="text-align: center;">（言語活動・理数教育の充実＜思考力・判断力・表現力等の育成＞）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も対全国比より向上させる。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が自分の考えをもち、話し合ったり発表したりする場を日々の授業や活動の中で取り入れる。</p> <p style="text-align: center;">（言語活動・理数教育の充実＜思考力・判断力・表現力等の育成＞）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p> <p>児童アンケートにおける「自分の考えを伝えるときに、相手を意識して表現するようにしている。」に対して、最も肯定的な「とてもそう思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</p> | B |

| | |
|--|----------|
| <p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>運動週間や「みんな遊び」により児童が運動する機会を増やすとともに、記録表を活用するなどの体力向上の意識が高まるような工夫をする。</p> <p style="text-align: right;">(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的回答率 85%以上にする。 ・ 保護者アンケート「学校は、子どもたちの体力向上に努めている」について、肯定的回答率 85%以上を維持する。 | |
| <p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>学校のきまりをもとに、ルールを守ることが安全な学校生活につながることを理解できるようにする。また、保健強調週間における「元気アップカード」の活用や、毎月の「保健だより」、安全に関する掲示物の作成などを通して、けがの予防について児童や保護者の意識を高める。</p> <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <p>児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回答率を 80%以上にする。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）</p> <p>① 朝学習では、タブレットドリル (navima)、キーボード練習、読書などにも取り組み、基礎学力の向上を図っている。チャレンジタイムでは、詩の音読や短作文指導、カタカナの定着、語彙集めなどに取り組んできた。短作文の中で習得した語彙や既習の漢字・カタカナを活用することで、語彙力や基礎的な言語事項の定着が進んでいる。また、各学年で国語科の公開授業を計画通り実施し、討議会を通して研究を深めることができた。家庭学習についても、学習習慣の確立に向けて丁寧な指導を行った。さらに、学年間でチャレンジタイムの取り組みを共有したことで、学力向上に向けた新たな視点や工夫を得ることができた。今後も阿倍野区の発表に向けて、研究内容の精査を進めていく。</p> <p>② 自分の考えをもって話し合い活動に取り組めるよう、各教科でペア・グループ・全体での交流の場を日常的に設定してきた。国語科を中心に、話し合いを進めるためのノート記述や話型の提示を行い、児童が自分の考えを整理して表現する力を育てている。また、授業後の振り返りを共有することで、友達との意見の違いに気づき、多様な考えを認め合う姿が見られるようになった。友達の振り返りを参考にしながら、自分の書き方を工夫する児童も増えている。さらに、ロイロノートや Canva を活用し、意見の可視化やスライド作成にも取り組むことで、自分の思いを相手に伝える力の向上につながっている。</p> <p>③ 各クラスで計画的に「みんな遊び」を行い、外で体を動かす機会を継続して確保してきた。また、「体力アップカード」を活用し、体育科や休み時間になわとびを中心とした運動に取り組むことで、児童の運動習慣の定着を図った。さらに、長なわ週間・かけ足週間・なわとび週間などの運動週間を実施し、児童が継続して運動に取り組める環境を整えた。記録表を用いた振り返りは励みとなり、体力向上への意識を高める効果が見られた。寒い時期でも進</p> | |

んで外で遊ぶ児童が増え、めあてをもって活動に取り組む姿も多く見られた。

- ④ 安全な学校生活を送るために、1年間を通して学校のきまりや安全な行動について指導を行ってきた。特に休み時間に危険な遊び方が見られた際には、全体指導や個別の声かけを行い、ルールを守ることの大切さを繰り返し確認した。また、「元気アップカード」や保健日より、保健指導を活用し、けがの予防について児童・保護者へ継続的に啓発してきた。保健強調週間では、意識して安全に過ごそうとする姿が多く見られ、けがの防止に対する理解が深まっている。けがが発生した際には状況を丁寧に聞き取り、どのように防げたかを考えさせることで、安全意識の向上につなげた。2学期後半には要受診のけが件数が増加したため、3学期には掲示物や保健指導で予防を強化し、具体的なデータを示すことで児童の関心を高めることができた。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① チャレンジタイム（短時間学習）の取り組み内容が、各学年・学級裁量で不明瞭だった。その為、校内で取り組み内容を共有することで、全校で共通の取り組みや、系統性を意識した学習を行う。
- ② さまざまな形の話し合いの場を設定し実践したことによって、自信を持って発表できる児童が増したが、「考えを深めたり、広げたりすること」については今後も課題設定や教材の工夫についての系統的な研究が必要である。
- ③ これまでの取り組みを継続し、児童の実態に応じた声かけを行うことで運動への意欲を高めていく。夏季は講堂への空調設備の設置を見据え、稼働後はこれを積極的に活用することで、安全に配慮しながら運動の機会を確保するとともに、運動場や体育館の点検・整備を通して、児童が安心して体を動かせる環境づくりに努める。
- ④ 児童が自分事として安全を意識できるよう、日常の場面と結び付けた声かけや振り返りを継続的に行っていく。けがの防止については全体で事例を共有し、廊下・階段を走っている児童を見かけたら誰に対しても指導をする。特に、朝門が開いたときに、毎日声掛けしても走ったり押し合ったりする児童がおり、今年度何度も指導してきたので、開門の仕方を検討する。

大阪市立阿倍野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。 ○ 児童アンケート「すすんで読書をしている」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」のそれぞれにおいて、肯定的回答率65%以上を維持する。 ○ 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的回答率85%以上を維持する。 | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <p>「キーボードチャレンジ」の時間やアプリの操作方法の習得など、基本的な技能を高めることで、ICTを活用して協働的な学びが進められるようにする。また、情報モラルを育むための実践や、教員自身の情報活用能力向上をめざす研修、ICT支援員との連携に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。</p> | A |
| <p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「ゆとりの日」を月2回程度設定する等、「学校園における働き方改革推進プラン」を促進する。</p> <p style="text-align: right;">(働き方改革の推進)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。</p> | B |

| | |
|--|----------|
| <p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>係活動や委員会活動による取組、図書に関する掲示物の工夫、学級・学年文庫の充実、学校司書との連携を通して、児童が読書習慣を身につけられるようにする。</p> <p>(「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童アンケート「すすんで読書をしている」において、肯定的回答率を 65%以上にする。 ・ 保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている」において、肯定的回答率を 70%以上にする。 | |
| <p>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>毎月の学校だよりや学年だより、ホームページを通して学校の取組や児童の様子を保護者や地域に広報することで、家庭や地域との連携を深められるようにする。</p> <p>(教育コミュニティづくりの推進)</p> | A |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている」について、肯定的回答率 85%以上を維持する。 ・ ホームページへの年間アクセス数 20,000 件以上を維持する。 | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）</p> <p>① ロイロノート・スクールを活用し、写真に感想や自分の考えを書き込んで共有するなど、協働的な学びを進めてきた。朝学習ではタブレットドリル (navima) にも取り組み、日常的に学習者用端末を活用する習慣が定着している。また、パスワード管理などの基本的な情報モラルや端末の扱い方についても継続して指導した。高学年では、週 1 回の「キーボードチャレンジ」を計画的に実施したことで、文字入力技能が向上し、意欲的に取り組む姿が見られた。授業ではロイロノートを用いた話し合い活動、調べ学習、アンケート作成などを行い、ICT を効果的に活用した学習が進んでいる。さらに、Canva を使ったスライド作成にも取り組み、学習内容の発表に活かすことができた。これらの取り組みにより、児童は ICT を学習の道具として主体的に活用し、表現力や協働的な学びの力を高めることができています。</p> <p>② ゆとりの日に 17 時 30 分退勤を目指して業務を進めるよう努めてきた。多くの教職員が意識して早めに業務を切り上げようとして取り組んでおり、以前より退勤時刻が改善してきている。一方で、業務量自体が減るわけではないため、持ち帰り仕事が発生する場合もあり、定時退勤の達成は依然として難しい状況がある。学年内で準備の負担を軽減する工夫を行うなど、働き方の改善に向けた取り組みは継続している。全体として、基準を満たす教員の割合は昨年度より改善が見られるものの、引き続き業務の効率化や負担軽減に向けた取り組みが必要である。</p> <p>③ 読書週間の取り組みや学校司書との連携、学級・学年文庫の充実を図ることで、児童が本に親しむ機会を増やしてきた。国語科の学習に関連する図書を配置したり、学年書庫を定期的に整理したりすることで、児童が興味をもって進んで読書する姿が見られた。また、図書</p> | |

委員会による図書館開放や掲示物の工夫、読書週間での表彰活動、ボランティアによるお話し会など、読書意欲を高める取り組みを継続して実施した。これらの活動により、休み時間や朝読書の時間に本を手取る児童が増え、読書への関心や習慣の定着につながっている。

- ④ 学年だよりや学校ホームページを月1回更新し、学校の取り組みや児童の様子を定期的に発信してきた。学級・学年での活動の様子を写真や文章で分かりやすく伝えることで、保護者や地域との連携を深めることができた。また、ミマモルメを活用することで、学年からの連絡事項を迅速かつ確実に保護者へ届けることができた。必要に応じてロイロノートで持ち物や活動予定を配信するなど、複数の手段を組み合わせることで情報発信の充実を図った。その結果、ホームページのアクセス数も増加し、学校の情報を積極的に受け取る保護者が多いことが確認できた。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① メディアリテラシーや情報モラルがまだまだ不十分だと感じることがあるので、それらを育むための実践を行う。また、教職員も情報活用能力向上をめざすための研修やAIの活用法やマナーなどについての研修を行っていく。
- ICT支援員にどんなことをお願いできるのか、どんなことを教えていただけるのかなど、他校での実績を紹介してもらい、各学年でICT支援員との連携を深められるようにする。
- ② 5時半には退勤するという雰囲気になってきたが、仕事が終わっている訳ではないので、結局持ち帰って仕事をすることがある。学年内で仕事を分担したり、スクールサポートスタッフを活用したりして、個々の負担を軽減できるような仕事の分担など効率的に進める工夫を行っていく。業務の精選など物理的な作業時間削減の手立てが必要である。校内の教員研修は長期休業中に計画するなどして分散する。
- ③ 学級文庫の定期的な整理を行い、各教科に関連した図書を取り入れることで児童が読みたい本にすぐ手を伸ばせる環境を整えていく。また、夏休みの課題図書を読む児童が減ってきていることから、長期休業中の読書習慣には課題が見られるため、休業前の計画的な読書指導や家庭と連携した取り組みを進めていく。
- 今後も学校司書と連携したり図書委員会の活動を継続し、日常の中で読書の時間を確保できる環境づくりに努めていく。
- ④ 多くの手紙がデータ配信になり便利になった反面、保護者が見落とししたり見ていなかったりすることが増えているため、発信内容を工夫するなどの課題がある。今後もホームページやミマモルメでの配信を通して、教育方針や学校の取り組みを保護者や地域に知らせ、連携をすすめていく。